

千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林

千本山人工ヤナセスギ・ヒノキ希少個体群保護林

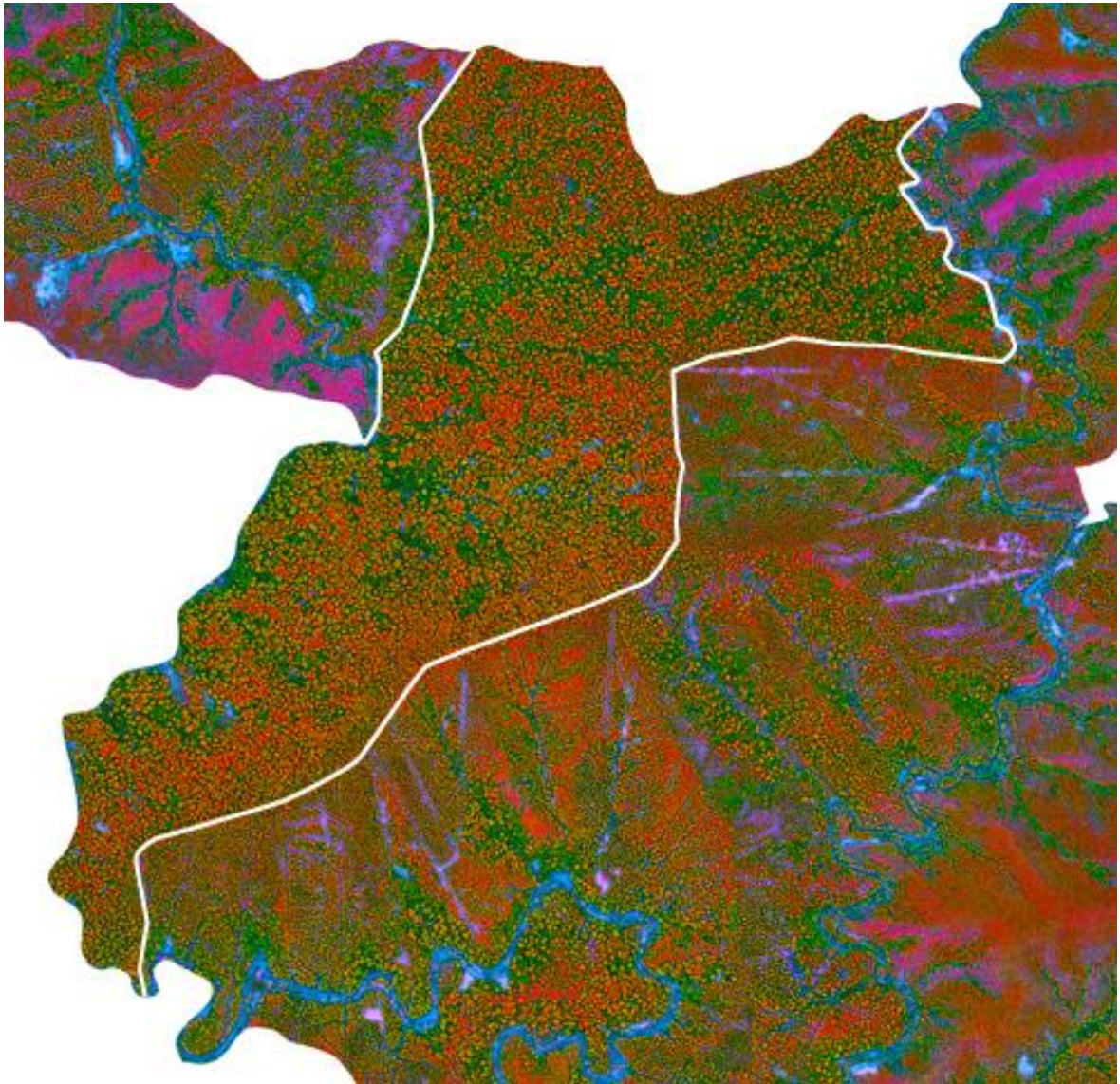


江戸時代はお留め山として伐採が禁止され、当時のままの姿を留めています。

千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林には、樹齢200年から300年といわれるヤナセスギが1000本以上も林立し、スギの大径木が天に向かってまっすぐにそびえる様子は、さながら大聖堂に入ったような荘厳な雰囲気漂わせています。

また千本山人工ヤナセスギ・ヒノキ希少個体群保護林では、ヤナセスギの遺伝子を将来にわたり継承するため、大正時代に植林した森を見ることが出来ます。

千本山登山道入口にある橋の大杉(森の巨人たち100選)は、吊り橋を渡るとすぐ目の前に見ることが出来ます。



▲航空レーザ計測で現れた千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林(白線内)

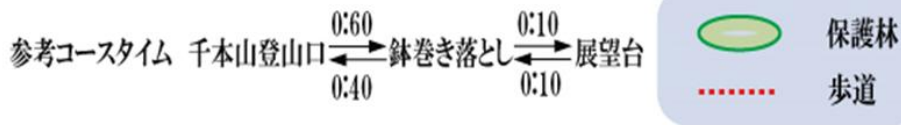
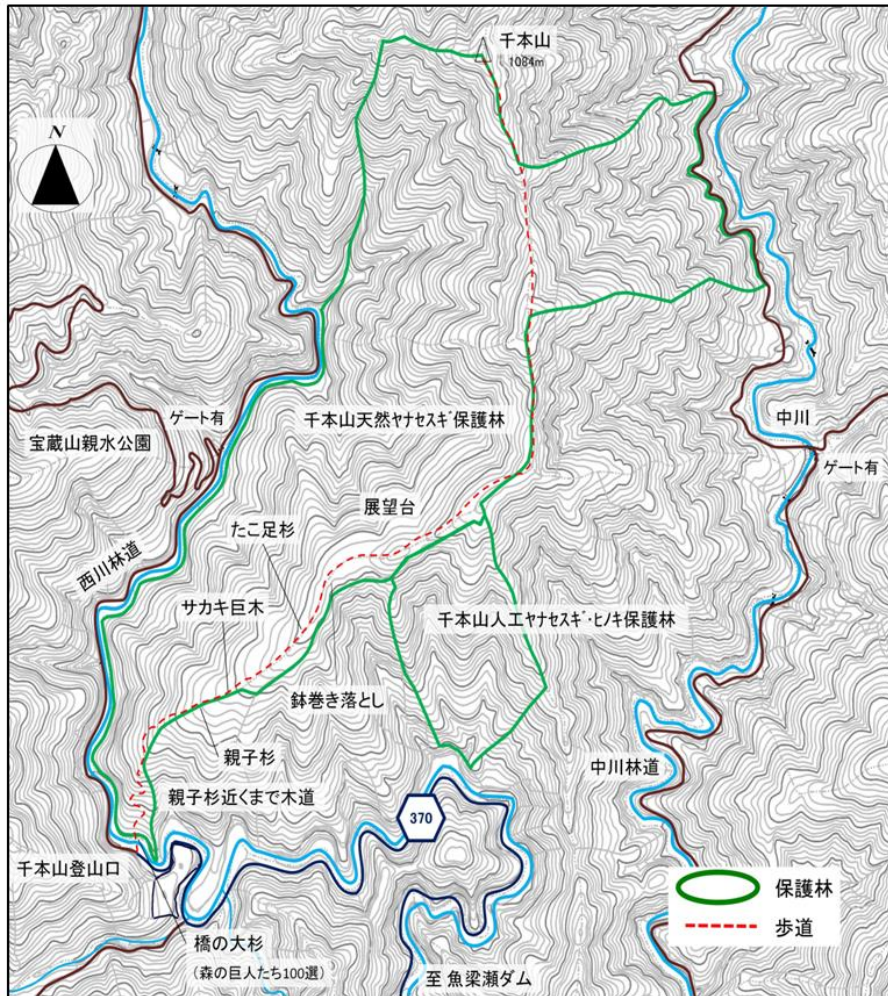
平成24年3月に実施した調査によって千本山の実態が明らかになりました。それによると、平均樹高は40m以上、高いものは50mを越え、約270本/haのヤナセスギが生育していることが分かりました。

上のレーザ計測写真からも保護林内は、周辺の山より樹冠が大きく、樹高が高いことが分かります。

【保護林マップ】

千本山天然ヤナセスキ(遺伝資源)希少個体群保護林
千本山人工ヤナセスキ・ヒノキ希少個体群保護林

マップ



○安芸市から馬路村経由で千本山登山口まで約60km (車で約1時間30分)

登山口から親子杉の近くまで木道が整備されています。

歩道沿いにはヤハズアジサイやオンツツジ、タブノキ、ミズメ、サカキなど様々な樹種を観察することができます。

また、展望台からは魚梁瀬貯水池や野根山街道を望むことができ、この展望台までの往復コースが一般的です。

【上空から見た保護林】



千本山天然ヤナセスギ(遺伝資源)希少個体群保護林の全景 (2012年3月22日撮影)
周辺の人工林と比べ、保護林には巨木が林立している様子が良く分かります。



千本山人工ヤナセスギ・ヒノキ希少個体群保護林の全景 (2012年3月22日撮影)

【スギの特徴】

日本の固有種で九州から東北まで分布しています。

一般にヒノキより成長が早く、幹もまっすぐ伸びるため人工林として最も植栽される樹種です。



スギの幹（雁巻山保護林にて撮影）

樹皮は赤褐色で縦に厚くはがれます。ヒノキと同じく檜皮茸の材料として利用されます。



スギの葉（雁巻山保護林にて撮影）

葉は1cmほどで、鎌形の葉がらせん状につきます。線香や杉玉として利用されることがあります。



スギの雄花と雌花（雁巻林道にて撮影）

2月から4月ごろにかけて大量の花粉を飛ばします。